

雲 外 蒼 天

No. 4

テストや模擬試験（実力テスト）は何のため？

中間試験も終わり、塾では模擬試験も始まっている。このテストや模擬試験は何のためにやらなければならないか、考えたことがあるだろうか？

テストは「先生が成績（内申書）を付けるため」「これまでにやったところを整理するため」「テストがないと生徒が勉強をしないから、勉強させるため」といった答が予想できる。また模擬試験については、「今の実力を知るため」「1, 2年でやった所の復習」「志望校の合格可能性を見るため」といった答が出るだろう。これらは決して間違っているわけではないし、確かにこのような目的はあると思う。

私が考えるテスト（定期テスト、模擬試験、実力テスト）の一番の目的は、『問題を切り分けるため』だと思う。これを聞いても、みなさんの頭の中は「？」が飛び交っていると思うので、もう少し詳しく説明したい。

みなさんが中学校（小学校も含む）で学ばなければならない事はたくさんある。そしてそれを基に作られる問題も数限りなくある。テストの一番の目的は、そのたくさんある問題を自分にとって、「できる問題」と「できない問題」のグループに分けることだと思う（下図参照）。



力を注げば良いのである。

しかし、多くの人にはテストの点数や、人と比べてどうだったかばかりを気にして、ここに宝の山が埋まっていることになかなか気が付かず、テスト用紙は机の奥に仕舞われ、2度と日の光を浴びることはないのである。時間をかけてテスト前に勉強をして、やっと「切り分け」ができたのに、点数だけ見て捨ててしまうのはもったいない。せっかく切り分けができ、今後やるべきことがわかったのだから、限りの時間、焦点を絞って勉強しよう！



なぜこのような作業が必要かという、簡単にいえば「できる問題」はもうやらなくても、本番でもできる（だろう）から、やらなくてもいい。たくさんの問題から切り分けた「できない問題」が「できるようになる」ということがこれからの勉強の目的なのである。これが本当に「実力が付く」ということである。

だから、今できる問題（例えば、テストで間違わなかった「式の展開」）はやる必要はなく、テストで間違いが多かった問題（例えば「因数分解」）にこれからの